



## G12 三越前

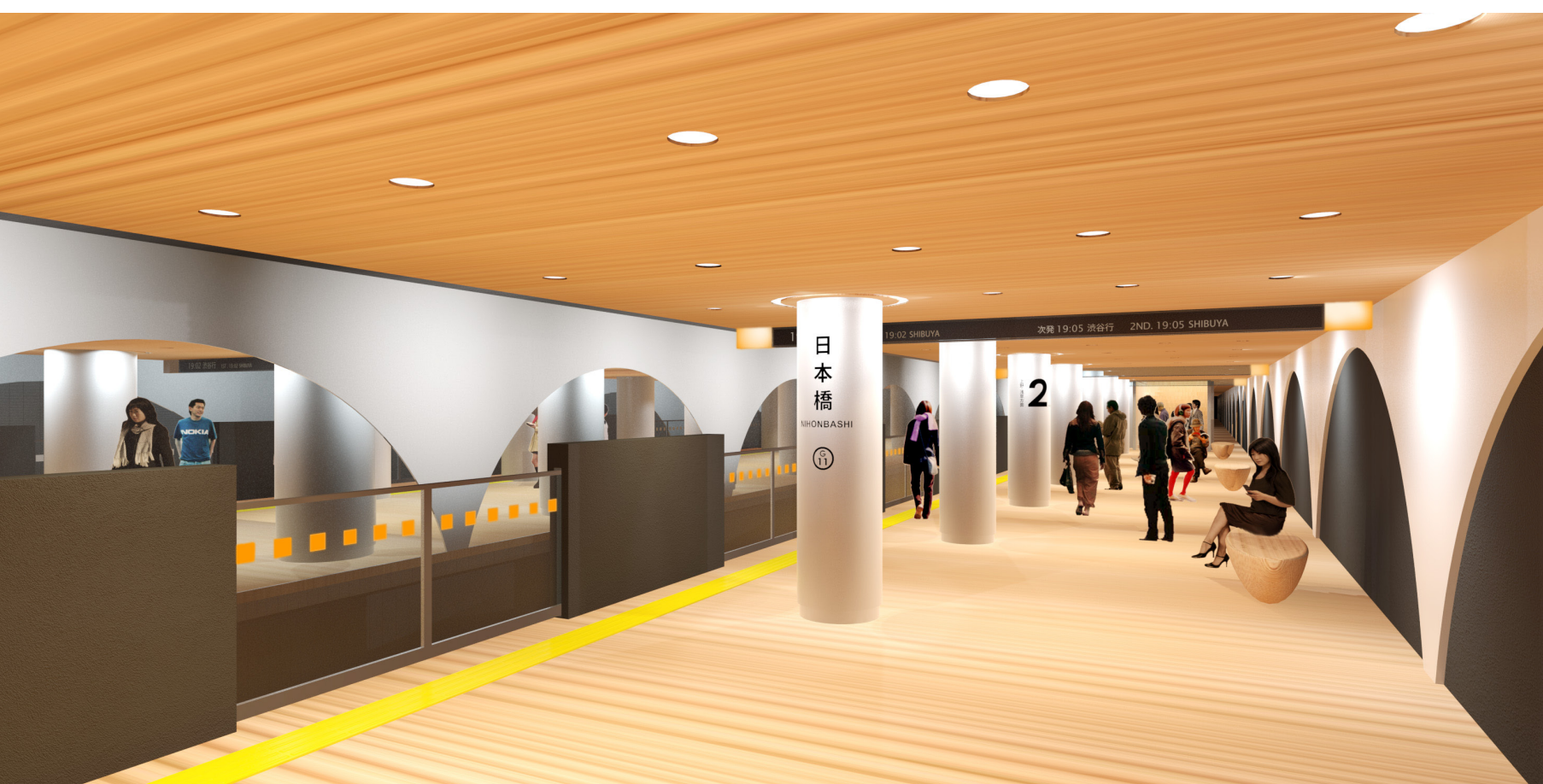
日本の粋が集う商いの空間

### CONCEPT

呉服屋だった三越を中心に今も昔も商業の街として栄える三越前にふさわしく、かつての呉服屋をイメージして明るく現代的な空間にデザインしました。格子や麻の葉文様の装飾、対向壁に配されたテキスタイルなど日本の粋の感じさせる要素を用いて、駅のホームにまで商店の雰囲気を持ち込み、買い物利用客に期待と楽しさを提供します。

### STORY

休日、地方から遊びに来た彼氏のお母さんとショッピングの一日。一人ならいつも渋谷や新宿に行くところだけど、今日はいつもより少し大人の気分で三越前に向かうことにした。暗いトンネルを抜けると、まるで何かのお店のように華やかな空間が現れた。三越前は、商人の町。呉服屋三越発祥の地、日本の文化が集まる地だ。色着物の染色、緻密な文様、建物の格子と、さまざまなパターンが窓一杯に光る。色鮮やかな色彩のコラージュに包まれ、彼女は色々興味深々。彼氏のお母さん、なんだか興奮気味だし、日本橋界隈の歴史散歩を楽しんで貰おう。



## G11 日本橋

人と文化が行き交う基点の象徴

### CONCEPT

五街道の基点であり古くから交通の要として人や物、文化が行き交った日本橋をモダンな空間としてデザインしました。構内に大きく配置されたアーチは「橋」の象徴としての意味と、往来する人々の動きをダイナミックに表現しています。乗換利用で人の移動が多いため、ホームドアや各所に銀座線カラーであるオレンジに光る有機ELを配置したり、サイン類も機能的に設計しています。

### STORY

通勤でも仕事でも、日本橋駅はなにかとよく乗換に利用する。今日も打合せで京橋から高田馬場へ、一度帰社して原木中山の自宅へ帰宅、とあちらこちらへ移動する。駅を行き交う人も多く、皆それぞれの行先へと動き回っている。けれどこの駅はとてもすっきりしていて、乗換も迷わず混み合ってもスムーズだ。迫力あるアーチが連続する様子は昔の絵巻物に描かれていた太鼓橋か石橋のよう。どこかリズムカルで、足並みも軽くなる。ここは昔五街道の基点だったそうだ。人が集まり、ここを通して、またどこかへ旅立つ。その歴史が今もここに流れているのだろう。そして私もその中の一人なのだ。



## G10 京橋

時のリズムを感じる快適空間

### CONCEPT

商業エリアの中でもビジネス利用が多い京橋駅は、石造りの京橋の伝統的な雰囲気を残しつつ、毎日の通勤を快適にする空間にデザインしました。構内の照明は時間帯で色と明るさを切り替え、朝は明るく元気に、夜はゆったりとリラックスした雰囲気を利用者を迎えます。また、鏡面仕上げの天井で空間を広く見せ、壁面植栽を大胆に取り入れるなど、地下の息苦しさを感じさせない工夫を凝らしています。

### STORY

今朝の出勤。東西線の手車窓に瞬だけ開かれる江戸川の朝日。私はこの光で一日の目覚めを感じているけれど、仕事の日って、スマホで見る経済ニュースと、上司から伝わる営業情報で過ぎてゆく。仕事の日々ってそんなものだと思う。退社の時間。私は一日を終えようと帰宅に急ぐ。一日のノルマをキーボードで捌いたことで、私は今日を終えようとしている。しかし、最近の京橋駅は、朝と夜で何か違うらしい。石造りの駅舎の静かな風情は変わらないけれど、石柱のから垣間見える光が、何か映ろいでいる。夕日のような色。壁は風に揺れる木陰のよう。そうか、これは家に帰ろうとする私達を見送る光だ。この駅は、一日という時間の終わりを、静かに伝えようとしている。

ターゲット設定

30代前半未婚女性。地方都市より就職で上京し、東京メトロ東西線「原木中山駅」を自宅の最寄りとし、一人暮らし。本コンペに登場する「京橋駅」を通勤先の最寄り駅として利用している。

TMR-494